

# 苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 11 回 定例委員会
日 時	令和7年10月24日 自 15時00分 至 16時13分
場 所	第二庁舎2階北会議室
出席委員	教 育 長 山 本 俊 介 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	佐 藤 郁 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主任主事 飯 塚 菜 摘
事務局職員	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 部 活 動 地 域 展 開 主 幹 奥 井 雅 俊 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 主 査 岡 崎 一 樹 総 務 企 画 課 主 任 主 事 飯 塚 菜 摘
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（山本教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（佐藤 郁子 委員）
3 会議録の承認
（山本教育長） 第10回定例教育委員会（令和7年9月26日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（山本教育長） それでは、9月26日開催の第10回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。
はじめに、令和6年度決算審査特別委員会が9月29日から10月3日の日程で開催され、一般会計及び企業・特別会計の決算審査が行われました。全会計とも全会一致で認定され、12月の定例会で承認される見通しでございます。
教育費の審査は10月1日に行われましたが、学校教育関連では、不登校対策事業、部活動指導員配置事業、コミュニティ・スクール事業、給食残渣資源事業などについて、質疑が行われました。
その中で、不登校対策事業に関しては、校内教育支援センターへの不登校対策支援員の全校設置を目指していること、部活動指導員配置事業では、地域クラブにおいて

も学校部活動としての教育的な意義や視点を適切に継承・発展させていくこと、コミスク事業では、委員の構成が町内会やP T Aなど固定化するのではなく、地域のリーダー的な存在になり得る人物も参加しやすくするべきとの観点からの質問であり、そのような視点での委員の選任も考えていきたい旨、答弁をいたしました。

次に、皆さんご承知のとおり、全国的な問題となっている女子児童の盗撮画像をSNS上のグループで共有していた一員として、道内の中学校教諭が逮捕されたことを受け、北海道教育委員会からも市町村教育委員会においては、各学校に対する指導を徹底するとともに、道教委の取り扱いを参考に、適切なルールづくりを進めるように通知がありましたので、市教委として私物スマートフォン等の取り扱いに関するルールを全小中学校に通知いたしました。内容としては、道教委のルールを踏襲しておりますが、災害や緊急時に備えての使用を除き、原則禁止としております。今回の問題は、私物スマートフォンなどによる児童生徒の撮影、それも特に盗撮が問題視されているわけですので、校長や教頭の管理下のもと、授業として必要な場合等は管理職に申請の上、許可制で認めるなど、柔軟な対応も必要と考えております。まずは今回のルールで運用をし、改善点があれば随時見直しを図ってまいります。このルールについては、10月6日の週に実施しました校長・教頭先生との人事等に関する面談と、10月15日の定例校長会議でも話をすると同時に、教職員の服務徹底についても再度指示をいたしました。

また、先月の会議の議題でもありましたが、10月1日付で教育委員会事務局の人事異動があり、学校教育課の部活動地域展開担当に係長職が1名増員となりました。本日、部活動地域展開の現況について報告が予定されておりますが、部活動の地域展開に向けて、様々な課題をクリアしながら、さらに取組を強化していくこととなります。

次に、10月15日、苫小牧市小学校長会・中学校長会・小中学校教頭会による令和8年度文教施策要望に係る懇談会が開催されました。同会役員と市教委事務局での懇談でありました。この内容については、本日の報告事項として後ほど詳細について

担当から説明がありますが、懇談の最後に私から次のようにコメントしました。

「GIGAスクール構想が推進され、子供たち一人ひとりが端末を駆使し、個別最適な学びと協働的な学びの実践のためにはICT関連技術は欠かせないものであること、そして、教職員の人材確保、働き方改革、部活の地域展開、不登校への対応、学校施設の整備など、課題も多岐にわたっていることを認識している。一方、これらの課題解決については予算が必要であり、市の財政状況も楽観視できる状況ではないため、優先順位を付けざるを得ないことはご理解いただきたい。教育は福祉と同様、やはり教員などのマンパワーを必要とする分野であるが、あらゆる分野で人材確保が困難になっている。故に校務DXの推進のほか、これまでの学校では馴染まないように思える民間委託や人材派遣といった手法も考えていく必要があるのではないかと。いずれにしても、何かを変えるということは労力を伴うものであるが、子供たちの教育環境がより良いものとなるよう、学校と市教委が一体となり、悩みながら教育環境の整備を進めていきたいので、協力をよろしくお願ひしたい。」といった旨を話しました。

続きまして、同日15日、第41回学校給食作文コンクールおよび給食に関する標語表彰式が行われ、出席してまいりました。今回は、作文が中学校4校から36点、標語は小学校12校、中学校3校から863点もの応募があり、作文は6名、標語は8名の児童生徒に対して表彰状と記念品を授与してまいりました。作文・標語ともに給食を通じて感じた感謝の気持ちや食の大切さなどを表現した素晴らしい作品でした。そして、給食が大好きという気持ちがよく伝わってくる印象を受けたところです。今後も給食の素晴らしさ、大切さを感じながら、元気に通学してほしいと願っています。

さて、令和8年度から10年度の公立高校配置計画が、道教委により正式に決定されました。計画案どおり令和10年度に苫小牧西高校が1クラス減となるわけですが、このことに加え、道立高校入学者選抜実施要項に個人調査書の出欠の記録欄を選抜の資料として使用しないことが明記され、不登校生徒等や保護者の不安が解消されること、高校授業料の無償化、北海道栄高校の移転が予定されるなど、本市の中学生が高校進学を決めるうえで、選択肢に変化が生じるものと思います。今後の進路指導を

行っていくうえで、注視していかなければならないものと考えております。

次に、生涯学習関係についてですが、10月2日、苫小牧自動車販売店協会様から電子図書14点、図書37冊を市立図書館にご寄贈いただいたことから、感謝状を贈呈させていただきました。主に自動車関連の書籍であります。電子図書の寄贈は図書館初でもあり、私からもお礼を申し上げます。児童生徒が使用しているタブレットから電子図書へのアクセスが可能となりましたので、子供たちも有効活用できるのではないかと思います。

そして、第77回市民文化祭が9月から11月にかけて市内各所で様々な事業が行われており、また、今月25日、26日には長生大学大学祭が開催されるなど文化芸術事業が続いております。

最後に、11月3日には委員の皆様にもご出席をお願いしておりますが、令和7年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞授賞式を予定しております。時節柄、ご多用かと存じますが、ご協力をお願いいたします。

私からの報告は以上でございますが、何かご質問等はございますか。

(一同「なし」の声)

## 5 議 案

(山本教育長) 本日は、審議する議案はございません。

## 6 報告・協議

報告(1) 校長会及び教頭会からの文教施策要望について

(総務企画課長) ー校長会及び教頭会からの文教施策要望について説明ー

<p>(山本教育長) 質疑に付します。何かございませんか。</p>
<p>(佐藤委員) 9ページ、施設・設備の改善の最後のところですが、校内のワックスに関して、業者ではなく教職員がお手伝いする際に、化学物質にアレルギー反応を示す児童・生徒がいるかもしれませんが、そういった心配は特にない材料でワックスをかけられるのでしょうか。</p>
<p>(総務企画課長) ワックス塗布の作業としては、長期休業中に集中的に行うような形を取っておりまして、その直後に子供たちがこの部分に立ち入るということは、あまりないところがございます。また、ワックスの材料につきましても、安全面への配慮に優れたワックスを導入して対応しているところがございます。</p>
<p>(佐藤委員) 7ページ、校務の効率化の t e t o r u 導入のところですが、どこかでもうすでに導入してこういった効果があるということが報告されていると思いますが、どのくらいの規模の都市、あるいは町で導入されているのでしょうか。</p>
<p>(総務企画課長) どのくらいの規模の自治体が導入しているかは把握していませんが、t e t o r u 自体は、小さな町でも導入しており、室蘭市も導入していると伺っております。他校から本市の方に来られた先生方からも、t e t o r u の便利さをご紹介いただいております。</p>
<p>校務支援システムという毎日の出席管理などの子供たちの情報を、さくら連絡網でも保護者のスマートフォンを通じて連絡できるのですが、それを校務支援システムに入力する作業が現在行われています。t e t o r u にすることによって、保護者からの連絡メールの内容がそのまま教職員の校務支援システムへ反映されるということで、大変校務負担の軽減になると伺っているところです。</p>
<p>(山本教育長) ほかにございませんか。</p>
<p>(齋藤委員) 5ページの一番上のG I G A スクール構想のところですが、全職員に1人1台端末を整備していただきたいという話ですね。以前も聞いたかもしれませんが、現状として先生方にはどのように配布されていて、現在全職員に配布されていないことで実際にどのような不都合が起きているのかということをお聞きしたいと思い</p>

ます。

(総務企画課長) 現在、全職員にはタブレットが渡っていないのですが、やはり子供たちがタブレットを使って授業をする中で、同じタブレットを用いて授業をしたいので、ぜひ整備していただきたいという要望がございます。授業にどの程度支障が出ているかは把握していないのですが、より効果的な授業になるという点でタブレットを整備していただきたいとのことで伺っております。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(岡田委員) 教職員の人材確保と増員という点ですが、現在の教育現場からすると、保護者との関係やいろいろな問題が現場にはあると思いますので、先生たちが働きやすい環境づくりや、悩み事に応えることなど、現場では取り組まれているのではないかと思います。その辺の教育現場の環境についてのケアをどう行っているかという点が大事ではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

(教育部斎藤次長) 先生方の給与の関係で50年ぶりに4月から改正されるということもあり、今年度は、学校の働き方改革を進める計画を作成することになっております。これについては今年度中に教育委員の皆様にもいろいろとご意見を伺いながら、どのような取組を進められるか考えていきたいと思っております。

例えば今回で言うと、電話メッセージを導入して保護者からの長時間の電話やクレーム、意見を録音することや、専門業者によるワックスの作業についても先生方の負担を減らすということです。それに加えて、先生方の健康状態の把握についても力を入れていかなければならないところです。そういった取組を具体的に進めていくための計画を作る予定としておりますので、また委員の皆様からもご意見をいただければと思っております。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(高橋委員) 先程お話しされていた人材確保の件ですが、胆振地域だけの課題なのか、それとも全道・全国的な課題なのか、さらにそのことを含めて教員のなり手について、今後の見通しがどのような状態になっているか、もしお分かりになりましたら

教えていただければと思います。

(教育部斎藤次長) 教員不足は、全道・全国的な問題になっておりまして、実際に今年度の採用が足りず欠員が出そうだというような情報が入ってきており、かなり厳しい状況だと認識しております。

そういった中で、本市でも欠員が生じないように取り組まなければならないという状況ですので、インターンシップや協力できるところを行っておりますが、今回の給与改正や働き方改革など、そういったこと全体で人材不足に対して取り組んでいかなければならないと考えております。

(高橋委員) 退職される方々が多いという背景よりも、働き方改革が進む上での時間割などを考えたときに、全体的な定員の数、対応される方が少ないという見方でよろしいでしょうか。

(教育部斎藤次長) そのとおりです。

(山本教育長) ほかにございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、報告第1号の質疑を終結いたします。

(山本教育長) 次に、報告第2号、3号について取り扱いますが、私たち市教委の取組を参考したいということで他市からの視察を受けております。本市が千歳空港、札幌から近く訪問しやすいこともございますが、ここ数年、教育分野、学校への視察が増えていると実感しており、市教委の取組や成果、また、その発信によって目に止めていただいているものと考えているところでございます。

特に今年度、部活動地域展開、樽前小の放課後子ども教室、植苗義務教育学校など道内外の市町、議会関係者などから視察を受けておりますので、本日は、その内容について、委員のみなさまと共有させていただきます。

報告（２）部活動地域展開の進捗状況について
（部活動地域展開主幹）一部活動地域展開の進捗状況について説明一
（山本教育長） 質疑に付します。何かございませんか。
（齋藤委員） ２点ございます。移動手段のことが一番気になっているのですが、勇 払地区で実証運行事業をするということで、その結果を踏まえて参考にして考えてい きたいということでしたが、保護者もこの点にはすごく関心があると思います。皆様 の関心がとても強いことですので、目安として、実証実験を行ってどのくらいの時期 に教育委員会としてどういったことができるか市民に示すことができそうかというこ とをお伺いしたいです。
あともう１点よろしいでしょうか。文化系クラブのことで、吹奏楽以外のその他の クラブは学校の居場所づくりといった側面が強いので、サークルとして残したいとい うお話があるとのことですが、本当にそのとおりだなと思って聞いていました。他市 へ視察に行かれたとのこと、視察に行かれた方はどのような文化系クラブの取組を 見てきたのかをお伺いしたいです。
学校で居場所づくりの部分を残すということであれば、令和１０年度からの文化芸 術クラブのあり方に関わってくるので、その内容が変わってくるということと、現在 中学校の文化系クラブについて、私も全て把握はしていませんが、例えば美術部 はこの学校にはあるというのが、学校によってあったりなかったりすると思います。 現在の段階でも学校によってこの部活があってこの部活がないような差があると思 いますが、そこら辺はどうなっていくのかなど。
例えば、美術部がある学校は居場所づくりとして残すとして、もともと美術部がな い学校で、違う文化部があってそこで居場所づくりをしていた場合、令和１０年度か らの文化芸術クラブがありますが、そういったものを学校に取り入れていこうとする のでしょうか。まだ先の話で、現在模索している段階なので、はっきりと答えるのは 難しいかと思いますが、そのあたりを教えてくださいませんか。

<p>(部活動地域展開主幹) はじめに移動手段ですが、具体的にこういった形で支援できるのはいつぐらいかというところで、今のところ明確には言えないのですが、現在そういった実証事業や他市の状況も踏まえて検討しているところでございます。令和10年をめどにこの完全地域移行というところがございますので、それまでにはできること、支援策を含めて発表できればというふうに考えております。</p>
<p>文化系クラブの活動のところでございますが、今年、静岡県掛川市に行ってきました。掛川市の考え方としては、学校の居場所づくりですとか、やりがいづくりについては全てクラブの方に移行するような形だというふうに聞いておりました。文化系クラブの内容についても、例えば家庭菜園や美術クラブも当然あるのですが、英会話とバスケットボールを組み合わせたものなどもございました。職員は比較的少ない人数でしたが、そういったいろいろな選択肢を教育委員会で考えつつ、事業を委託しながら取組を進めているようでした。</p>
<p>今後の本市の移行につきましては、例えば本当に美術をやりたいお子さんであれば、居場所として学校にあるから美術部に入るお子さんもいらっしゃると思います。学校のことや先生を含めて、どのように進めていけばよいかというのは、協議中でございますが、一つのことにとらわれることなく、いろんなことができるようなサークルという考え方も材料の一つなのかなと考えているところでございます。</p>
<p>(齋藤委員) お答えいただくにはまだ移行中で難しいところだと思いますが、先程の説明で少しイメージが湧いてきましたので、参考になりました。ありがとうございます。</p>
<p>(山本教育長) ほかにございませんか。</p>
<p>(高橋委員) まず一つ、6ページ。部活動地域展開アドバイザーが令和7年度4月に1名採用となっており、配置目的の中に退職職員や中学校長経験者などと書かれています。結局は中学校長経験者をアドバイザーとして採用したということで、この方は基本的にはあくまでも期間が終わるまでの1年だけで、仕事の内容としてかなりの件数もありますし、移行される中でまず大丈夫なのか、仕事の内容やボリューム感</p>

<p>として耐えうるのかということをお聞きしたかったです。</p>
<p>あと教育委員会と現場という言葉が先程言われていたのですが、これはなかなか思</p>
<p>いが伝わらないので、アドバイザーの方に対応してほしいというところだったと思</p>
<p>います。これは現状の学校の状態として指しているのか、それとも今後の部活動の移行</p>
<p>先との折衝に関して、教育委員会と現場が合わないということ指されているのかと</p>
<p>いうことが1点目です。</p>
<p>それと2点目に関しては、現状の部活動について、各学校の生徒から活動費として</p>
<p>集めたものを細分化して割り振り、要は部活動のお金はある程度その学校から拠出さ</p>
<p>れていることが実は多いのですが、学校の規模や事業内容によって異なります。それ</p>
<p>だけではもちろん済まなくて、例えば遠征費ですとか、吹奏楽で言えば高額な楽器を</p>
<p>購入することなどがあります。現状としてお金については、PTAの方からの補助を</p>
<p>集めて使ったりしています。そういう形の補助が今後の部活動移行によって結論的に</p>
<p>無くなってしまうと想定されていると思います。全校に対して特にPTAとの関わり</p>
<p>の中で、例えばそういったお金についてはこれまでと同様の形でいただくとして、部</p>
<p>活動移行後の補助については、自分たちの学校の子供たちが活躍しているのでPTA</p>
<p>活動費から出しましょうという名目でこれまでやってきましたが、それが名目として</p>
<p>使えなくなってしまうということです。</p>
<p>ただ、子供たちに対して、PTA活動費と同じような形で、補助してもらえよう</p>
<p>なシステムについてお話ができるのであれば、かなりの金額になりますので、ご家庭</p>
<p>に対する負担をなるべく軽減しようとお考えかと思いますが、部活動のお金が足りな</p>
<p>いといったときに甘えられるような形で、ちゃんと子供たちに対応していった方が、</p>
<p>ご家庭にとっても有益なものにつながるのではないかと思います。ここもかなり難し</p>
<p>い案件だと思いますが、ぜひお考えいただければと思います。</p>
<p>(部活動地域展開主幹) はじめに、部活動地域展開アドバイザーのところござい</p>
<p>ますが、業務内容としては学校間ですとか競技団体との連携調整だとか、そういった</p>
<p>ところで情報共有を進めていく形になります。基本的には私も一緒に活動していると</p>

ころでございますし、非常にスムーズに動いていただけるアドバイザーでございますし、本当にいろんな関係者とつながっているところでもございます。私と、また今年10月から主査も配属されておりますので、過度の負担にならないように連携しながら一緒に業務を進めているところでございます。

次に、活動費ですが、地域展開を進めていくには指導者の報酬や活動費など、やはりそういったものは各関係者、当然、現在クラブを運営している方々からも話を伺っているところでございます。持続可能な体制づくりという点で、ある程度の支援は必要だと考えております。視察した際にも、そういったお話を聞いたところでございますし、いくらが妥当なのかというところも、現在検討しているところではございます。先生方が部活動を行った際に特勤手当のような形で支給されていた部分もございますし、地域クラブになってしまうと、支給されなくなるということもございますので、金額設定も含めて、現在検討しているところでございます。そのような状況でございます。

(高橋委員) 課題の一つとして部活動の地域移行はもう挙げられており、その中で結構お話しされているかというふうに思いますが、先程言ったように各学校によって支援する体制やシステムは異なります。ぜひ積極的に直接PTA連合会の会長へ働きかけをしていただき、現状のPTA会費のあり方というか、活動費を拠出していただくようお願いをすべきだと思っています。

それともう一つは人材登録に関することですが、現在、企業で働く方に対する評価基準などもすごく気にされる昨今になってきています。例えばボランティアですとか、そのことに関して、教育委員会としての褒賞的な形で、この方は部活動地域移行に関してこういう活躍をされているので、企業の側でも何らかの形で表彰というか、評価項目の一つとして挙げていただくようお願いしていくことは、おそらく考えられることだと思います。ぜひそういうことに関しても検討していただければと思います。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(佐藤委員) 2ページのロードマップに関する確認ですが、1ページ、2ページの

ところで、全国大会がなくなった種目も含めて継続していくとのことでした。競技種目についてですが、特に冬のスポーツは全国大会がなくなってしまったという寂しい状態になっていますが、それを継続していくということで、スポーツの楽しみやそこでの成長を求めていると思います。

将来的に競技種目が変わったり、追加されたりすることがあると思いますが、その際は例えば学校単独や部活動発展型がなくても、令和10年からは苫小牧の総合クラブが運営すると考えてもよろしいでしょうか。どんな種目が追加されるか分かりませんが、現在ほかの種目で競技をしている生徒が経験したことのない種目が出てくると思います。しかし、そういう場合でも令和10年からは総合クラブが運営していくというふうに解釈してよろしいでしょうか。

(教育部斎藤次長) まず、現在も進めている部活動地域移行のベースは中体連の種目ということになっているので、今後も中体連自体がどういう種目を行っていくかということになるかと思えます。ただ、実際に地域クラブの活動になったら中体連の大会に重きを置かなくなっていくので、当然、現在は入っていない例えばスケボーやいろんな競技があって、それらはその競技団体での大会運営になっていくものなので、中体連という括りにこだわらず、地域クラブは維持されていくものだと思います。それを市教委としてどういうふうに総合的に管理していくかというのは、ちょっとまだ課題が残っていますが、チームを維持できないとか、新しいチームができないですとか、そういうところでは心配ないと思います。

(山本教育長) ほかにございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、報告第2号の質疑を終結いたします。

報告（３）たるまえ放課後スクールについて
（総務企画課長）ーたるまえ放課後スクールについて説明ー
（山本教育長） 質疑に付します。何かございませんか。
（齋藤委員） 基本的なことをお伺いしたいのですが、放課後児童クラブは学校が終わった後に家にいても保護者がいないお子さんのために開催されているものだと理解しました。今回この「たるまえ放課後スクール」というのは、２ページに一体的な放課後児童クラブおよび放課後子ども教室と書いてありますが、これは放課後子ども教室という認識でよろしいでしょうか。
（総務企画課長） 国の放課後対策の二本柱になっているのですが、このうち放課後、保護者が仕事のために保育が必要な方には放課後児童クラブがございます。それと合わせて、居場所づくりという観点から、子供たちの体験活動や学習活動を行うものが、この放課後子ども教室ですので、おっしゃるとおり「たるまえ放課後スクール」というのは、放課後子ども教室ということです。
（齋藤委員） 国から補助金が出て、「たるまえ放課後スクール」は運営されたという事ですか。
（総務企画課長） コーディネーターなどを置いて全市的に活動を行うのであれば、国から補助金が出る可能性もありますが、「たるまえ放課後スクール」の取組においては補助金に該当しないような形で行っていることもあり、教育委員会にて自前でやっている状況です。
（齋藤委員） 予算について理解できました。保育や幼稚園の現場というのは、保育施設が足りないという声が全国的にありましたが、それが大分満たされてきたので、次はこの放課後児童クラブや小学生の放課後の居場所づくりが課題になってくることを私も聞いておりました、本当にそのとおりでなと思っています。その中で、現在はちょっと予算が厳しいということですが、おそらくこれからその方向にいろいろ動いていくと思います。自前で頑張ってもらったと思いますが、今後必要ですので、できることは少ないかもしれませんが、この後も続けていっていただきたいで

す。アンケート結果も子供たちが興味を持って楽しく活動できたと書いてありますが、保護者や講師の方々の実際の声を手がかりに、少しでも予算がついたらいいなというのが私の希望です。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(佐藤委員) 8ページの実施協力者や予算の確保が厳しいことについて、苫小牧唯一の特認校ということで、寄付を受け取ることはできないのでしょうか。予算が決められていたら、その中でやらなければならないのですか。樽前小学校はいろいろと楽しい行事がありますので、そのときに寄付の箱を置くと良いのではないかと思います。が、それは禁止されているのですか。

(総務企画課長) 禁止ということではありませんが、講師の方々にも多方面で幅広くお願いしておりまして、去年は高専からもご協力をいただきましたし、そういった賛同してくださる企業等からこのような取組を行っているということで、ご理解を賜りながら、何とか内容を充実させていきたいと考えております。

(佐藤委員) 素人考えですが、小規模特認校というものを全面的に出して、皆様にご協力いただければ、もっと楽しくいろいろなことができるのではないかと思います。いろいろなところで寄付をするのは当たり前になってきているので、可愛いとまチョップの寄付の箱か何かがあればいいかなと思って伺いました。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(齋藤委員) もう1点お聞きしたいのですが、樽前小学校に放課後児童クラブはあるのですか。

(総務企画課長) 現在はございません。

(齋藤委員) 分かりました。もし放課後児童クラブがあるなら、そこの兼ね合いはどうなっているのかと思い、お伺いしました。

(山本教育長) ほかにございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、報告第3号の質疑を終結いたします。

7 その他

(山本教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言 (山本教育長)・・・16時13分